

イモ例会（第81回例会）のお報せ

日時：2021年10月2日(土) 13:00～

会場：Zoomによる完全オンライン

テーマ：イモが与えてくれるもの

趣旨：世界のイモ類には、ジャガイモ、サツマイモ、ヤムイモ、キャッサバ、サトイモなど多様なものが知られている。人類はこれまで野生から栽培まで多様なイモ類を主として食料として利用してきた。現在もイモを主食として暮らす人びとが世界各地に見られる。本例会では、このようなイモ類と人とのかかわり方を歴史的・地理的に展望することを狙いとし、次の3つの点を明らかにしたい。まず、人類は、いつどこでイモに出会ったのだろうか。野生のイモや栽培イモと人類とのかかわり方の初期の形を紹介する。次に、イモと人とのかかわりは、どのように文明世界とのあいだで歴史的に展開してきたのだろうか。最後は、現代社会におけるイモ類と人とのかかわり方である。ポテトチップスのような食から「芋煮会」に至るまで様々な形がみられるだろう。以上のように、本例会を通じ、イモとヒトとの多様な関係を確認するとともに、イモ食文化の頑健性についても議論してみたいと考えている。同時に、イモ類と人との関係を総合的に把握することから両者の関係の未来について考えてみたい。

イモ例会実行委員会委員長：増野高司

演題：趣旨説明

増野高司（総合研究大学院大学先導科学研究科）

講演Ⅰ「ジャガイモと文明」

山本紀夫（国立民族学博物館・名誉教授）

講演Ⅱ「サツマイモの受容史 ―日本列島の事例から―」

小島摩文（鹿児島純心女子大学人間教育学部）

講演Ⅲ「ヤムイモの採集・栽培がもたらすもの ―ネパールヒマラヤ南麓の事例から―」

橋 健一（立命館大学政策科学部）

講演Ⅳ「キャッサバ利用の多様性と食料生産 ―ペルーアマゾンの事例を中心として―」

大橋麻里子（東京大学大学院総合文化研究科）

コメント

遠藤秀紀（東京大学総合研究博物館）

総合討論

参加資格

生き物文化誌学会会員。会員でない方は参加できません。

参加費

2,000円（正会員、賛助会員）、1,000円（20歳未満）

参加費の振込先は追ってお知らせします。原則として返金をいたしません。

参加申し込み

次のGoogle Formでお申し込み下さい。

<https://forms.gle/AKdHrdT4g8n4SR4S7>

参加申し込み期限

2021年9月3日（金）

接続テスト

2021年9月24日（金）17:00を予定

（オンラインに不安な方は参加下さい。Zoomのインストールはご自身でしていただく必要があります。）

お問い合わせ

生き物文化誌学会 イモ例会実行委員会 遠藤秀紀

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学総合研究博物館

e-mail : ikimonobunka@yahoo.co.jp

